



DOKKYO SAITAMA HIGH SCHOOL

獨協埼玉高等学校

No.

9

2007.8.10

同窓会会報

発行：獨協埼玉高等学校同窓会 発行人：玉山 栄一
〒343-0037 埼玉県越谷市大字恩間新田字寺前316
☎048-977-5441 FAX048-977-2031
e-mail: dosokai@dokkyo-saitama.ed.jp
URL: http://www.dokkyo-saitama.ed.jp/



今回紹介する「職業体験」は、こういった流れの中、獨協埼玉同窓会が学校と連携して

育を試みてきています。
供する子供が学ぶ機会の主流であり、大部分でした。しかしながらここ10年くらいで、学校が提供する機会として多くのものが加わってきました。災害被害者や社会的弱者などに対するボランティア活動という概念の理解と実践。欧米は当然のことながら、その他アジアなどにも目を向けた国際理解教育。インターネットや携帯電話などの新しいテクノロジーの使い方や付き合い方の教育。こういった新しい流れに対応するために、比較的閉鎖的と形容されてきた学校も、様々な専門的知識を有した人たちが外部機関などと連携して、積極的に社会と関わりを持ちながら新しい教育を試みてきています。



この会報を手にしている大部分の同窓生にとって、中学高校で行ったことといえば「勉強」や「部活」、そして体育祭・文化祭・修学旅行といった「学校行事」が思い浮かべられると思います。かつては、こういったことが学校が提

同窓会後援企画

中学校

アメ横職業体験



行ったプログラムで、自分の将来を見据えた進路選択を促すための進路指導・キャリア教育の一環として実施されました。
今にも雨が降り出しそうな7月10日の正午、上野の西郷隆盛像の前に獨協埼玉中学3年生約100人が集まりました。今回受け入れてくださったアメ横の方からの挨拶と簡単な諸注意の後、2、3人程度にグループ分けされた生徒達は、それぞれ連れられて約60の店舗に散っていきましました。初めて顔を合わせるお店の方に、きこえない挨拶をすることから彼らの職業体験が始まりました。生徒達が体験する店は実に様々で、輸入雑貨店、革製品、アクセサリや靴を扱う店、海苔・乾物・果物などを扱う店、そしてアメ横の代名詞的な魚屋さん。店の掃除や商品の整理、店の裏側で在庫品の整理や商品の袋詰め、そして接客など、様々な体験をすることとなりました。店の従業員と同じ前掛けを身につけつつも、なかなかお客さんに声をかけられなかった生徒ですが、15分もすると大きな声で「いらっしゃい！△□が安いよー！」と大声で客引きを始めた。中には大人顔負けの力を発揮し、店の方から年末の忙しい時期に是非とも働きに来て欲しいと言われる生徒もいたくらいでした。また、店の裏側でひたすらシラスのパック詰めをしたり、靴の在庫棚の整理をしたり、高級腕時計を磨いたりする作業に没頭する生徒もたくさんいました。3時間弱という短い時間ではありましたが、「アメ横」という実社会にさらされることによって生徒が吸収できたものは、本当に多くのものがあつたと思います。体験後「俺1万8千円も魚を売っちゃったよー」「おじいちゃんに靴を売っちゃったよー」「店の人が怒られた。」など生徒の口から聞くことができたのが印象的でした。
今回の職業体験を実施するに当たって窓口になって下さったのが、自らアメ横で化粧品を扱う事業を営んでいる玉山栄一さん（同窓会会長）で、生徒に職業体験をさせたいと考える学校の依頼を受け「尽力いただきました。公立の中学校などで盛んに実施されている職



業体験は、地元の商店街などと連携して行われるのですが、獨協埼玉のような私立では実施が難しいのが実情でした。しかも10人という大規模となると受け入れ可能なところは皆無に等しく、実施を検討しつつも何度となく断念してきましました。そのような中、同窓生・同窓会という立場から協力を申し出てくださり、学校としても非常に感謝しています。また、学校が主催する職業体験とはいえ、保護者の立場からすると少なからず「不安」を感じることもあると思いますが、窓口となつていのが同窓会ということになれば、保護者の不安を払拭する一助ともなりました。
先に述べたとおり、学校が果たすべき役割は多様化し、獨協埼玉中学高等学校においても様々な取り組みを実践しています。こういった取り組みは、「人間を育てる」ことを大切にしている我が校においては、形こそ違え昔から行ってきたことだと思っています。同窓会としても何ができるかを考えながら、母校の発展、後輩の成長を見守って頂きたいと思っています。
(教諭 中3担任 10期生)

同窓会長 玉山栄一



本同窓会も早いもので、10年目を迎えることとなりました。これも皆さまのご理解、ご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

さてこの1年を振り返

—

その中でも特に次の2点に着目をしています。

1点は多様化する社会の中で、視野が広く、多角的な視点を持てる人間作りです。まだまだ自分の知らない世界があり、自分にはないものの見方があることを自覚し、何かに行き詰まったときには思いついて発想を変え、見方を変えることで新たな発見をする、そんな人作りを目指したいものです。

やっぱり懐かしい！

校長



先日、喜寿を迎えた恩師を囲んでの高校時代のクラス会があった。喜寿といえは七十七才、昔の感覚では大変なご年令である。そ

ちの年齢が六十四才、もう、ほとんどがリタイヤ組で、なんだか大変なクラス会であつた。

つた。

もう一人いる。小柄で痩せていて弱々だったS君である。仕事が忙しくてクラス会への参加をためらっているうちに時が流れてしまったそうだ。

高校時代四十八キロの体重が今や六十六キロ、全くの別人となって現れた彼を懐かしいS君と確認するのは容易ではなかった。「Sです」との彼の名乗りを聞いても参加者の反応は鈍く、最初は皆曖昧な笑顔を浮かべて対応していたと思う。

それが、一時間も経つ頃にはすっかり懐かしい
S君が復活していた。声は変わらないし、朗々と
酒脱な話し方は昔のままだった。

クラスメートは、そして同窓生は四十六年経つ
ても懐かしい。すっかり容貌が一変していても、
やっぱり懐かしい！

(社会科)



卒業生がこれ程
顔を見せる学校は
ないのではないか。
楽しい思い出がそ
れ程あったのか。

とにかく学校祭などの行事以外の

時でも職員室で卒業生を見かける学校ですね。教員側からいうと、成長した卒業生の顔を見るのは本当にうれしいものです。子どもを速れた嬉しい母親の顔を立派にしている」と、「あの子が、ここまですになったのか」と

【英語科】



「今を楽しく、今を元気に。」こんな感じで暮らしています。一年という時間の進行の速さには、ただおろおろ対応するだ

同窓会の方々の脳裏には獨協埼玉で過ごし

（英語科）



同窓生の皆さん、いかがお過ごしですか？ 毎年、新しい生徒との出会いを続けていくうちに、私の獨協埼玉での生活

も二十年になろうとしています。元氣な生徒との年齢差のギャップを刺激に変えて教壇に立っています。

皆さんは社会に出てさまざまな活躍の
 ことと思いますが、私の教員生活を振り返った
 とき、教室で教えたことが皆さんのその後の

親の気持ちになったようで、安心して自分の気が付きます。

一昨年、初めて担任をもった二期生を迎えてホームカミングデーを実施して頂いた際、懐かしい顔を拝見しました。その時頂いた名刺には立派な肩書きが、社会の中核として活躍する年齢になったのか。でも顔を見せないあの生徒は今何をしているのか。悔いを残した生徒のことも同時に思い出しました。

卒業生は間違いなく成長してきたようですが、教員の方は取り残されてきたのではないのか。ふと思う時があります。

た年月に、御自分の人生の大切な部分が多寡はあれ、存在すると思っておられるのではないでしようか。

三十六歳の時に獨協埼玉にやつて来ました
が、あと三年で定年です。現在、一年生の担
任をしています。彼らと一緒に獨協埼玉を
去ります。「日本一の愛情のある学校である」
と信じてきました。「出監の誉れ」という言
葉が好きです。お会いできるのを楽しみにし
ております。

生活にどんな形で役立っているか、それがいつも気になっています。

学校もその後、中学が併設されたり、女子の制服が変わったりと、時間とともに変化していますが、この学校で皆さんが過ごした頃のおおらかな雰囲気は今も残っています。この校風のもとで過ごした自由でのびのびした日々が、スピード化された社会で生きている皆さんの、その後の人生の糧となってくれるよう願っています。同窓生の皆さん、時間を見つけて母校にも脚をのばしてください。きっとあの頃の優しい新鮮な自分にまためぐりあえると思います。

第十回同窓会総会・懇親会開催



梅雨入り宣言されたばかりだというのに真夏の暑さになった6月16日(土)、本校小ホールにて第10回同窓会総会・懇親会が行われました。総会では、18年度の事業報告・会計報告がなされ、19年度の事業計画・予算案などが上程されました。3月に獨協大学内に完成した天野貞祐記念館への竣工寄付金として、30万円を予算に計上した議案も含め、それぞれ御承認いただきました。

総会後の懇親会は、卒業期がひとケタの子連れ卒業生、3週間の実習も終盤を迎えた教育実習生、卒業したての若々しい学生など、年の差最大25歳とはいえ、同じ校舎、先生方に学んだ者同士の和やかな会となりました。お忙しい中、御参加くださった校長先生はじめ諸先生方からもお言葉をいただきました。懇談の時間には、スライドショーが行われました。乾杯の際、根岸先生が「年配の先生方にお会いできるのもあと数年、このような機会には是非母校をお尋ねください。」とおっしゃっていましたが、スライドで振り返ると、あつという間には過ぎ、いろいろなことが変化しているのを感じました。スライドの後半は、加倉井先生の解説による初めての中高一貫生の6年間の記録でした。当の25期生からは、懐かしさと気恥かしさの混じった黄色い悲鳴があがっていました。



来年は同窓会設立10周年の節目の年です。多くの同窓会の御参加をお待ちしています。

決算・予算報告

平成18年度決算書 H18年4月1日～H19年3月31日

収入の部	支出の部
★前年度繰越金 16,513,383	★次年度繰越金 18,192,032
★終身会費卒業生 3,510,000	★総会費 551,987
★終身会費既卒生 340,000	★会報費 1,228,243
★利息 2,699	★書架費 305,550
★10期生ジュース買取 2,000	★幹事会費 30,000
★懇親会収入 126,000	★慶弔費(花束) 12,600
	★体育祭ジュース 173,670
合計 20,494,082	合計 20,494,082

平成19年度予算(案)

収入の部	支出の部
★25期生 終身会費 2790000	★総会費 551,987
★H18年度より繰越金 18192032	★会報費 1,228,243
★預金利息 2500	★書架費 305,550
★懇親会収入 60000	★幹事会費 30,000
	★慶弔費(花束) 12,600
	★体育祭ジュース 173,670
	★卒業アルバム保管用 13,800
	★企画費 500,000
	★天野貞祐記念館寄付金 300,000
	★予備費 17,928,682
合計 21,044,532	合計 21,044,532

湖上の日・Ⅲ

第三回ホームカミングデーを振り返って



「お前、太ったなー!」
「うちは子ども3人でにぎやかだよ!」 懐かしい声が響く会場。

昨年の9月23日、獨協埼玉高校3期生のホームカミングデーが昼・夜2部構成で開催された。第一部は14時から中学棟第1会議室に3期生20名程が集まり、おのおの近況報告等をお話した後、おとし完成したばかりの第2体育館や中学棟を見学した。その後、懇親会が「フライングデー」に場所を移して行われ、校長はじめ当時の担任の先生方全員に参加していただき、にぎやかに会は進行した。そして最後に21年振りに全員で校歌を歌い、名残惜しさを残しつつ、会はお開きとなった。

それにしても、一昨年の1期生、昨年の2期生から今回のホームカミングデーの幹事を引き継いだ私にとって全てが初めての試みだったので、準備段階からそれはドキドキの連続だった。果たしてみんな来てくれるだろうか? どうしたら高校時代の気持ちに近づけてもらえるだろうか? などなど、様々な不安と葛藤しながら試行錯誤して当日を迎えた。しかし、そんな心配は無用だった。懇親会には80名近い仲間が来場してくれて、会場に一歩足を踏み入れた瞬間から皆、高校生の頃の顔に戻っていた。久しぶりの先生方との再会、懐かしい仲間との楽しいおしゃべり、21年振りの校歌、何より心地よいこの空間。中学校が出来たり、第2体育館が出来たり、少し様子が変わってしまったけれど、何年経っても、何十年経ってもココは私たちの母校であり、スタート地点なのだ。それを実感した1日。まさに「ホームカミングデー」だった。

井校長、玉山同窓会会長はじめたくさんの方の協力をいただいた。この紙面をかりて御礼申し上げます。ありがとうございます。

最後に、後日私のパソコンに届いた参加者からのメールを紹介して結びとしたい。

- ・卒業以来お会いしてなかった先生方に再会でき、大感激でした。ありがとうございます。
- ・20年振りに獨協埼玉を訪れたところ、様変わりの景色。随分と近代的になったと思います。また来訪できる日を楽しみにしています。
- ・ホームカミングデーで懐かしい友人にたくさん会うことができ、楽しく有意義に過ごせました。再会を約束して帰途につきました。
- ・懐かしい先生方や同級生とお会いできて、とても充実した1日を過ごすことができました。またこのような機会があれば、ぜひ参加したいと思っています。
- ・久しぶりの友の顔、先生の顔に元氣百倍となりました。今回のホームカミングデーを機に、また遊ぶ約束もしたいです。
- ・久しぶりに獨協埼玉を訪れて、懐かしい方々に会えて本当に良かったです。年に一度くらいこのような機会があれば参加したいと思っています。
- ・卒業後初めて獨協埼玉を訪れました。懐かしいキャンパスに、お変わりのない先生方。本当に嬉しく楽しく、また懐かしい時を過ごしました。
- ・久しぶりに友人達と会えてとても楽しかったです。子どもが小さいのでなかなかこのような機会が持てなかったのですが、みんなが面倒をみてくれて本当に助かりました。ありがとうございました。

…3期生



第四回 ホームカミングデー

4期生ホームカミングデーに向けて各クラス幹事が春から一生懸命準備をしています。卒業して22年。初めての同窓会です。今皆さんがどこに住んでいるのか、必名の最新名簿を作成するのに大変苦労しました。この名簿を手に入れている4期生が全員参加して下さることが幹事一同の願いです。以下、皆さんへのメッセージをお届けします。

「卒業20年、仕事に就き家庭も持ちいろいろあったのに昨日のように思える。昔変わったとは思えないけど言葉に話が出来ると良いですね。」

「青春を過ごした学び舎で心も身体もあの頃よりひとまわり大きくなった。」懐かしい顔と声お話ししよう。

「日常から一瞬だけあの頃に戻って情報交換しましょう。大好きだった先生もご出席。一緒に楽しい時間を過ごしましょう。」

「お久しぶり！獨玉卒業して40才過ぎるオヤジ・オバサン達！22年前思い出してさわやかに全員登校！」

「皆さんへ」多忙であるとは思いますが、学校の担当の先生なども含め、幹事やお手伝いして下さっている方々も一杯やっております。ぜひとも気持ちのいい参加の返事をお待ちしています。久々に会うと結構楽しいものです。」

「高校時代、おじさん達だと思っていた先生方が、今の自分より若かったなんて。同窓会への出席率は決して4期は高くないですが今回は4期だけの集まる会。やる時はやる、4期！今まで以上の出席人数を期待しています。」

「気づいたら20数年、40代突入。そろそろ同窓会っていうのもいいね。」

「同窓生の皆様はどんな40代を迎えていらっしゃるのでしょうか？高い秋空の下、あの懐かしい校舎で皆さんの笑顔に会えるのを楽しみにしています。」

「始めはいやいや引受けた幹事でしたがやってみるとうちに懐かしい気持ちになり同窓会が待ち遠しく思えてきました。皆に会えるのが楽しみです。」

「卒業アルバム開けてみて一瞬しさにしばし時を忘れちゃった。10月6日、アルバムのあの頃に戻りに行こうよ！」

「40才に達せられませんがね（汗）。でも大丈夫さ皆40才です！とびきりの笑顔で皆様にお会いできる日を楽しみにしています。」

「人生80年、折り返し地点をプチ不調で思い知る日々。皆さんに会って元気をもらいたいんです。たくさんのご参加お待ちしております。」

「なぜか引き受けてしまった同窓会の幹事。久しぶりに電話した獨玉のみんなは優しく、昔と変わらない。そして大人になった獨玉生にぜひ会いに来てほしい。」

「自由国連に育った7組の皆さんへ！」「そのまんま7組」のノリで楽しもうね！」

「高校入学の時から四半世紀が経ち、私達も40歳になり、再会のチャンスが来ました。その日は昔に限り楽しませんか！」

「いやあ！皆、相当変わってるのかなあ！結構楽しんでもあり、恐くもありません。自分の事は棚にあげ、10月6日（土）に予定の入っている人はキャンセルして、ホームカミングデーに！獨玉生玉！って入れて下さい！」

「幹事会で22年ぶりに会ったのに気持ちだけはすぐに高校時代に戻れて楽しかったです。同級生っていいですね。同窓会の日は見えた目も戻れるように頑張ります。」

「2007年10月6日、せんげん台で22年前の18歳のあの日にタイムスリップ。皆、楽しみに待ってるよ！」

「当日は2次会、3次会……とオールナイトで盛り上がりましょう！育児中のパパママもこの日はハメをはずせるように！各ご家庭での振替もさつりとお願ひしますね！」

「それでは、4期の皆さん10月6日（土）は大いに語り合いましょ！」

講演会報告



去る、平成19年2月24日、高校生徒会執行部主催・PTA後援の講演会として、「教科書にも載っていない将来の道」というタイトルをいただき、お話しをさせていただきました。すでに、獨協埼玉高等学校を卒業して

20年以上の月日が流れ、今の自分と学生時代の様々な点が、一筆書きのように結ばれていることを強く感じます。そんな、卒業生ならではの気持ちを伝えられたらと思います。今回、学校でお話しさせていただきました。

私は、現在、埼玉医科大学ゲノム医学研究センターの病態生理部門というところで、骨に関する研究に取り組んでいます。実は、高校3年生の時に「遺伝子」という言葉を知るまで、自分の進路を真剣に考えたことがありませんでした。新聞やニュースで「遺伝子」という言葉を度々見聞きするようになり、それが生命の根本らしいということを知りました。また、人間だけでなく、その他の動物や植物、昆虫などを含めた地球上の全ての生物が同じ「遺伝子」で決められていて、「遺伝子」同士を組み換える技術があると報道されていた。それが私にはとても魅力的に見えて、どうしても「遺伝子」を見てみたいと思ったのが高校3年生の夏休みでした。学校で進路を相談したところ、薬学部が遺伝子の研究をしているらしいと伺い、その日に薬学部を目指すことを決めました。

無事に大学に進学できましたが、薬学部は薬を勉強するところで、当然ながらいつまで経っても遺伝子の話は出て来ません。我慢できず、3年生の時に遺伝子を触りたいと学内の研究室を回り、ようやく遺伝子を触る機会に出会いました。本に書かれていたままの「白くて細い糸」を目にしたとき、これがあの「遺伝子」なのかと感激したことを覚えています。その研究

室で骨の薬を作るというテーマをいただき、結局、それから20年も骨と遺伝子の研究を続けることになりました。

現在は、遺伝子の変異が原因で全身の筋肉が骨になってしまいう進行性骨化性線維形成症（FOP）と呼ばれる、日本に数十人しか患者さんはいない病気を研究しています。講演会直後の3月に厚生労働省によって新しい難病に認定されたので、ご存じの方もいらっしゃるかも知れません。我々は、国内の患者さんと協力しながら、遺伝子の変化による発症原因の解明や治療法の確立を目指しています。残念ながら競争に負けてしまいましたが、最近、アメリカのグループが病気の原因となる遺伝子を突き止めました。この病気が人間以外では発見されていないため、私達は原因となるヒトの遺伝子をマウスに導入して、マウスの中で病気を再現しようとしています。このような研究を進めるほど、生物は極めて精巧にできていて、私達人間がいかに無力であるかという思いが強くなるのも事実です。

バスケットボールとテニスに熱中していた高校時代に、このような仕事を想像していたわけではありません。けれど、高校3年生で目にした「遺伝子」という言葉が、大きく影響したことは確かです。学生時代には毎日の生活が無限に続くように思えるかも知れませんが、学生でいる時間は人生全体の僅かです。忙しくとも学生時代に一時立ち止まり、自分が一生をかけて取り組めるものを考えてみることは悪くないと思います。そのときは結論が出なかったり、後で考えが変わったりすることもあるでしょうが、一度ゆっくり考えることで、明日からの学校生活が全く変わるかも知れません。今回の講演で、そんな思いが少しでも学生さん達に伝わったならば幸いです。

埼玉医科大学ゲノム医学研究センター
部門長・准教授



国際交流の今



現在獨協埼玉中高では、4つの国際交流プログラムが提供されています。その内3つが高校で、残り1つが中学校になります。高校の主軸となっているのが、約2週間の相互派遣を行う姉妹校交流です。交流の内容は、受け入れ校の生徒がホストを引き受け学校内での世話をし、家庭にはホストファミリーとして協力を頂いています。同年代の生徒同士がお互いの言語、文化等を肌で学び合うプログラムです。相手校はオーストラリアのペノラ・カソリック・カレッジと、ドイツのシュタインバート・ギムナジウム（それぞれ隔年で実施）です。また夏期語学研修としては、4週間ホームステイをしながら、カナダのカリガリー大学の正規留学生用授業に参加するプログラムがあります。そして中学校ではニュージーランドのレビン・インターメディアエイト・スクール（毎年実施）と高校と同様の姉妹校交流をしています。以下簡単にそれぞれの状況をお知らせします。



まずペノラ・カソリック・カレッジとの姉妹校交流ですが、今年の3月に本校生徒約20名がオーストラリアに行きつて参りました。英語の勉強はもちろんのことですが、日本ではなかなか味わえない大自然にたっぷり触れることが出来ました。また、初めての海外生活で、日本を改めて見直す機会を持ち、人間的にも一回り成長をした彼らでした。

次にシュタインバート・ギムナジウムとの交流です。今回で2回目の交流で、まだまだ始まったばかりのプログラムで、本校スタッフ一同、相手校の教員と協力しながら試行錯誤を繰り返してより良いプログラムを造れるように奮闘中ですが、今回姉妹校提携の調印をし、今後ますます



の発展が期待されています。今年はシュタインバートが来校の年として、ついこの間の6月に20名の生徒達が2週間の滞在をしました。彼らはいづれも日本語を学習しており、生きた日本語と日本文化に触れるまたとない経験をする事が出来ました。また、本校のホスト生徒達もお互いの第2外国語である英語を一生懸命駆使していました。ホスト生徒達にとっても、異文化間のコミュニケーションの難しさとそれを乗り越えることの大切さを学ぶ良い経験となりました。

カルガリー大学の語学研修は、高校2年生を中心とした20名近くの生徒達が7月14日に出発をしました。毎年多くの生徒達が充実した授業内容のもと、英語力のスキルアップを果たしています。今年も沢山の生徒達が英語力の向上を果たして行くことを期待しています。最後に中学のレビンとの交流ですが、9月、ちょうど蛙鳴祭の時期に15名の生徒達がやってきます。彼らの年齢は本校中学生達よりも少し低めなので、毎年ホストの生徒達はお兄さん、お姉さんとして接し、他者への気遣い等を学び、大人へのステップを踏み出します。今年も良い交流が結べることを願っています。

（国際交流委員 中山賢先生）

「部活動紹介」

第8回 なつかしきあの頃 ソフトボール部



ソフトボール部といえば、まず、第一に浮かぶのが、先生の姿でしょう。獨協埼玉高校が共学となり、ソフトボール部が同好会として発足した当時から、現在に至るまで、変わらず指導してくださっています。空き時間には、グラウンドの整備、練習では、厳しい言葉が飛び交うノックアウトでも目をつぶると、昨日のことのように鮮やかに思い出されます。

藤田先生が、ソフトボールの技術と同様に力を入れて指導してくださったのが、相手を思いやる気持ちと礼を尽くす心です。その方針は「気配り・目配り・思いやり」「感謝の気持ちを忘れない」という部活のめあてにも表れています。一年生の頃は、ことあることにわけも分からず復唱させられていたことを覚えていて、それが、学年が上がるにつれ、それは、部活中や試合中だけでなく、日常生活においても大切なことだということになり、今では、この「気配り・目配り・思いやり」と「感謝の気持ちを忘れない」という2つの精神は、私のモットーであり、今後、私

という人間を形成してくための「核」といっても過言ではないでしょう。

もう一つ、獨協埼玉ソフトボール部の特徴として挙げられるのが、伝統を重んじていることだと思います。日々、時が流れ、新しくなったものが古くなっていく中で、ソフトボール部には、変わらないものが二つあります。

まず一つ目は、先輩を敬う姿勢です。私が現役だった時も、合宿や練習試合のたびに、OGの方からたくさんのご指導を受けました。それは、私がOGとなった今でも後輩たちに受け継がれています。そして二つ目は、ユニホームのデザインです。獨協埼玉ソフトボール部のユニホームのデザインは、現在では珍しい長ズボンタイプのユニホームです。設立当時から色もデザインも変わっていません。先輩方のお古を着まわしているため、中には、つぎはぎがしてあるものもありました。

試合に行くたびに、周辺の高校のユニホームが新調され、正直、うらやましいなと思ったこともありました。しかし、ソフトボール部が設立された当初の先輩がデザインし、関東を出るまでは決して変えないと代々受け継がれてきたものです。このユニホームこそ先輩方や自分たちの「泥・汗・涙」と「目標」が詰まった伝統そのもののものです。私たちOGは、その「目標」をクリアできずに引退を遂げてしまいましたが、現在や未来の後輩たちには、是非、目標をクリアして新しい伝統を作り上げていくってほしいと思います。

最後に、私は、この場所でかけがえのない友とたくさん経験を得ました。後輩にも是非ソフトボール部を通してたくさんの方の事を学び、得てもらいたいと思います。この獨協埼玉高等学校に、伝統を重んじ、思いやりの心あふれるソフトボール部が、いつまでも続いてくれることが、私たちOGの願いです。



21期生

平成19年度 教員座談会

司会：中高一貫となり、初めての卒業生ができました。そこで今回のテーマは「一期生」とし、様々な思い出をお話いただきしたいと思います。まずは中学立ち上げの準備についてお願いします。

〇〇 94年頃から中学設立の話が持ち上がり、どういう学校にするかをかなり話し合ったね。「自ら考え行動する生徒を育てる」という高校の理念を踏襲しつつ、他大志望・理系志望がこれまでに以上に高まるだろうから、それに答えなければという気持ちでいたね。ゼロからの出発で、しかも素人だよ。とにかくがむしゃらにやっていたなあ。開校前の学校で、何も分からないからとにかく受験生が訪れて来るんだ。それでも面倒がらずに1時間2時間と説明してね。後で聞くとそれが良かったみたいだね。

〇〇 そうはいけど、先生は大体3時間だったよ。特に綺麗なお母さんの場合。(爆笑)。今でも覚えてるけど、受験生に制服を着せて写真まで撮ってあげてね。ここまでしてあげる学校は他にないだろうって思ったね。それでも、始めは教職員間での中学開校に向けた意識の一本化が大変だったね。今は少子化も深刻ではなかった頃だし、「そんなに急がなくても」という意見もあったね。だからこそ絶対に失敗は許されないというプレッシャーはあったね。そこで改めて「協働」というブランドに助けられたね。ブランドのない新設校は軒並み苦しむ中、それなりに注目度は少しずつ高まってきたからね。でも、校舎もない、カリキュラムもない、何を宣伝して歩くかという「夢」しか語れない。(笑)。新設校には熱い冷ややかだね。やれるものならやってみようという感じで、司会：4クラス募集のはずが、6クラスになってしま大変でしたか？

〇〇 本来先生は講師採用の予定だったのに、急遽「それでは担任として」という話になって、

本人も訳の分からないうちに入学式、オリエンテーションに連れて行かれてね。

〇〇 入学式も手順が分からなくてね。教科書やら段頭やら配る物が多くてね。

〇〇 私のクラスは見るに見かねて保護者の方が手伝ってくれましたよ。先生は段頭を配り忘れちゃった。(笑)

〇〇 オリエンテーション合宿も、人数が増えたものだから大変だね。うちのクラスの男子は20名で「宴会場」にいらしたよ。

〇〇 1年生の時のクラスはどんな感じでしたか？

〇〇 私の場合、高3を卒業させて、すぐに中1でしたから、そのギャップが大変でした。しかも元気のあふれる2組だったから尚更。(笑)とにかく毎日何か事件が起きてましたね。またそれをすぐに職員室に報告にきてくれるものだから。

〇〇 エアコンのカバーをすぐに壊したのも2組だったよ。よく女子が男子の上履きを女子トイレに投げ入れてたよ。

〇〇 全クラス共通してたのが、黒板下の壁が足跡だらけ。まだ真っ白な壁一面が足跡足跡！

〇〇 先生はね、急な採用で気持ちの準備もできてなかったんだろ。始めは怒り方もお嬢さんでね。「……しなさいね」だったのが、1ヶ月もたなかったね。「静かにしろよ」っていう教室での怒鳴り声が職員室にも響くようになってね。何だか申し訳なくて。(笑)。

〇〇 うちのクラスは個性が強かったけど、暴れん坊はいなかったかな？ただオリエンテーション合宿で着いたその日に、和室の鴨居にぶら下がって壊した生徒はいました。でも修了式では生徒が自発的に合唱の歌を最後に歌ってくれて、感動しましたね。

〇〇 うちのクラスは男子が変なやつでした。書きの時間に果たし状を書いて送りつける子がいっぱい、何だか数珠を数えている子がいたり。

〇〇 先生は1年で学年を降りることが決まっていたからね。思い入れも強かったはずが……

〇〇 そう。修了式の日、先生のクラスが合唱で感動的な中、うちも最後にいい話でも1つと

思っていた矢先、「先生バスが出ちゃいます」って言われてですね。もうガックリですよ。(笑)。

〇〇 授業もゼロからのスタートだったから大変でしたね。何かアイデアを出すと「やってみよう」という感じ。私にそんな決定権があったいいのかなと思いついてましたね。

〇〇 学年全体としてはどのような雰囲気でしたか？

〇〇 1人1人みんな印象は強いけど、とにかく1期生は元気があつたし、個性もいろいろだったね。

〇〇 本校は今でもそうだけど、他の私立中学とは生徒の雰囲気も違うね。やはり協働の良さは、異なる個性でもはじかれることなく一緒に過ごしている所だね。学年のカラードレス一言では言い表せないけど、いろいろいたね。

〇〇 行事などはどうでしたか？

〇〇 最初の学年で全て初めてでしょ。先生も生徒も大変だったと思うよ。以後の道しるべを作ってくれて感謝してますよ。

〇〇 文化祭も手探りでしたね。それでもバラエティに富んだものができたと思います。

〇〇 1組・2組が劇、3組がサイクリング展示、4組が数学史の展示、劇、5組がプラネタリウム、6組が英語劇でした。

〇〇 酒井先生は紙芝居を生徒に勧めるも、乗ってくれず、よく夜7時ごろ1人教室に残って黙々と作ってたね。

〇〇 合唱祭は今でも伝統として行なってるね。素人の担任が指導する姿が面白くてね。

〇〇 合唱祭の後は手探りの楽器を使うという荒業に出たクラスもあったよ。夜な夜なアイデアを出し合うのが楽しかったですね。1学年だけだからできたのかな？「小ホールへ行きたい！」って。

〇〇 授業についてはどうでしたか？

〇〇 担任ではないという気楽さもあったけど、授業は楽しくやらせてもらったね。

〇〇 勉強面での難関も1期生が作ってくれたね。理解度やプリントなどね。理科にはよく興味を持ってくれたね。

〇〇 数学はとにかく補習補習、最後はエンドレス補習をしていたの思い出されます。

〇〇 補習メンバーの間でも何か独特の雰囲気、友情みたいなものが芽生えてきたりして、面白かったですね。

〇〇 堀口：よく百名以上のメンバーを小ホールの床でやらせてたね。そこから補習メンバーを選ぶ「オーディション」って今は死語だよ。

〇〇 何で30回も練習したのにABCがかけないの？って泣きたくなりましたね。中間テストまでの目標がローマ字で名前を書けるようにしようって。でもいろいろチャレンジさせてもらえて、教員になったからこそこういう英語教育をしてみたいと思っていた事の多くをさせてもらえました。

〇〇 家庭科の授業をとて楽しんでくれたのが嬉しかったですね。数学や英語で補習を受けている子が、縫い物ですばらしい作品を作ったり。

〇〇 男子が縫い物の注意を真剣に聞いている姿がかわいかったな。

〇〇 調理している姿は、男女とも生き生きとしていて、普段の授業では見られないものだね。

〇〇 最後の1期生へのメッセージを。

〇〇 もしあの時中学を建ててなかったら、1期生と出会ってなかったら……と考えると、きつと全く違う教員生活を送っていたんだろうと思います。あんなにも充実した中学生生活を送った生徒は他にいないだろうと思います。

〇〇 ちょうど彼らの年代に中学スタートだったんだけど、彼らのお陰で疲れを感じる事もなくならせてもらえたね。充実した教員生活を送らせてもらえたと感謝してます。

中学設立準備から開設まで

中学学年主任

現校長（当時教頭）から「中学を設立したいがどう思うか」と聞かれ、二つ返事で「作りましょう」と答えたことを今でも覚えています。当時、千葉、埼玉では中学の新設ラッシュで、立教新座、芝浦柏などが大成功しているのを見ていました。東京ではすでに高校受験から中学受験にシフトしていき、本となる学校はいくつもありませんでした。しかし何より必要に迫られていたのは本校高校受験者数の長期低落に歯止めがかけられないことでした。私が本校に着任した頃は高校にも勢いがあり、獨協大学推薦の波に乗り、調剤に募集されたわけでした。しかし今から10年くらい前、高校受験は大きなうねりに入りつつありました。業者テストや偏差値制度の廃止、少子化による受験生の育田買いや大学入試地図の再編など。私学の生き残りにかけていくつももの学校が名称やコンセプトの改革を余儀なくされていきました。毎年卒業生の6割近くを獨協大学に推薦で送り出し、生活指導に手をこまねく必要のない時代は当の昔に過ぎ去っていたのですが、気がついたときにはタイクニク号のごとく船体には大きな亀裂が入っていたのです。すぐにも手の打てる大きな改革……それが中学設立という形で実現できる唯一の方法だと感じました。



それからは数校の説明会を見て回り、本校でできることと是非取り入れたいことなどを考えて会議にかけました。20年近くの高校生活で見えなくなっていた本校の長所短所を検証し、更に進んでもらえる学校になるための必要条件を形にし、教員間でコンセンサスを作る作業が最も難関だったように思います。外部の反応は様々で、大手塾を前校長や現校長と話し、設立のコンセプトをお話しすると「そんなコンセプトでは募集は難しいのでは？もともと進学色や目に見える特色を作ったほうが良い」と言われ、校長と肩を落として歩く日々でした。

た。校舎はなく、カリキュラムもパンフレットもなく、あるのは「獨協埼玉中学」という名前と広報担当者達の頭の中にだけ存在する理想的な教育。この実体のない商品を具現化して歩く内に、設立前年の夏、校舎を初め様々なものが形になり始めました。壁の白さやタイルの鮮やかな色、教室の扉や昇降口前の長いすに木材を多用することで生まれた温もり。そして何より吹き抜けが眩いほどの光を取り込んでくれました。今年卒業した中学1期生があらゆる壁に足型をつけ、教卓のネジをはずし、何枚ものガラスを割るなど、開校から1年で白亜の校舎は見る影を失いました。しかし、この環境の下、熱意に燃えるスタッフに囲まれて育った彼らは自分の夢を実現するために努力を重ね、みごと獨協大学に合格してきました。形の無い「理想」を売り歩き、それを信じて入学を決めた生徒や保護者に対する責任はいつも私自身のエネルギーを生み出す原動力でした。中学入試が順調になり、高校入試をスリム化することで何とか軌道を取り戻した本校にもまだまだ問題は山積しています。この原稿を書きながらあの頃の情熱を思い起こし、もうひと頑張りしなければと痛感しています。

2006年度卒業生を送り出す

高校学年主任

2007年度、新学期が始まって約2カ月が経過した今学校は静かである。3年前のあの喧噪は何であつたのだろう。2004年度に高校に入学してきた生徒たちは22名、獨協埼玉中学から22名、さまざまな中学からの入学生が加わった。ここに獨協埼玉高校にはじめて中高一貫生が入学してきたのである。高校として新しい試みが始まる。それは色々な悩みの始まりでもあった。

入学式ではなにやら賑やかな一貫生と不気味に静まりかえる高校入学生。その後1組から4組はA棟へ、5組から9組はB棟と分かれた。それとともに始まったのはさまざまないたずらである。トイレにはトイレペーパーが詰め込まれ水があふれ、ともするとペーパーは水で溶かされ壁にべたべたと張り付き、教室の鍵が壊され、黒板や日直日誌にたくさんの落書きがあふれた。この手のいたずらは延々と約1年間続くことになる。なかでも困ったのは鍵

とコンセントの破壊である。クラスによつては3本のカギを修理することになった。そのエネルギーの根太さには驚かされた。このエネルギーが将来ともな方向に向くとはいえ少しも考えられなかった。中学からの入学生、高校からの入学生という2つのグループの擦り合わせをどうするかは担任集団を悩ましていた。クラブ等を通じて仲良くなるだろうと言う楽観的な見方もあるが、当面様子を見ることになった。案の定、林間学校で小競り合いが見られたが、幸いなことに時間とともにその後大きな問題にはならず過ぎていった。

この1年間の大きなうねりは2年生になるとやや沈静化し、イタズラの方も2年生になると若干あつたが全体としては生徒が落ち着きはじめた。高校2年生では相変わらず成績上位者は内部進学生が大半を占めていたが、外部から入学した生徒たちの成績が徐々にアップし、成績優秀者の中に7名から9名の生徒が顔を出すようになってきた。第2学年も夏休みを過ぎると、多くの生徒たちが例年になく自主的に学習に取り組む様子が各クラスから垣間見られるようになってきた。

修学旅行も大きな問題は起こさずに済みますことができた。2006年の修学旅行は環境と平和学習の2本柱をたて、混雑で身動きがとれない沖縄から余裕のある九州に場所を変更して行った。多くの生徒が卒業文集に思いを書き残してくれてほっとしている。そして、事故はわずかあつたが6枚破れただけであった。

いよいよ最終学年を迎え、夏休みの前後で推薦入学希望者を募った。2006年度卒業生の獨協大学への希望者は激減し、また多くの大学でAO推薦入試として青田刈りを始め、この指導においては少々混乱した。そして、4年生大学の理系を希望するものが大幅に増えた。これは獨協埼玉中学校ができたことによる。一貫生の男子の多数が理系の大学を目指すことになる。

そして、受験の本番を迎えることになる。その結果、獨協埼玉高等学校卒業生別名中、学園内併設校へは推薦で獨協大学進学した比率が16パーセント。今から15年前の65パーセントと比べると夢のようである。しかし、国公立大学へは8名、早稲田・慶應・上智・理大へは30名、学習院・明治・立教・青山・中央・法政にはなんと28名、受験の結果は大幅に変わった。あの高校1年の頃いたずらの限りを尽くした生徒たちががんばってくれたのである。この3年間の苦くて甘い結果を残してくれた。まあ、終わりをければすべてよしとしよう。

●教育実習を終えて●

この3週間を終えて、色々な人たちに「教育実習、どうだった？」と聞かれ、その度に私は決まって「すごく楽しかった」と答えます。このように楽しかったと言いつけるのは、指導してくださった先生方の広い心、丁寧な指導や協力、そして何よりも、生徒たちの協力があつたからです。色々な人たちに助けられ、この3週間を終えることができ、本当に様々なものに、いくら感謝しても足りないような、そんな気持ちでいっぱいです。

実習を終え、教師というものを、さらに本気で目指していきたいと思いました。ただ、私が実習で体験した教師としての経験は、まだ上辺の、先生方の教師としてのやりがいというのか、楽しいと思えるような、そんな一部分を代わりにやらせていただいただけだったのだと実感を終えた今、振り返ってみて実感させられています。それなのに、慣れないことをしているためなどからくる精神的疲労や明らかな睡眠不足などによる体力疲労を感じてしまったことを考えると、3週間だから乗り切れたけれど、実際に教師としてやっていくためには、まだまだかなりの努力をし、様々なことを学んでいかなければいけないと思ひしらされました。

悩んだりも苦しんだりもした、この3週間は私にとっての宝物になりました。なによりも生徒みんなが優しく、純粋で、とても協力的で、たくさん助けられました。どんなに疲れていても、生徒たちの元気な声を聞き、笑顔を見ると自然と疲れも消え、笑顔になっていく自分がいました。笑顔やパワーは伝染するんだなあと改めて実感し、やはり、笑顔は地球を救う、のではないかと、本気で考えてしまいました。

宝物のような日々を経験させてくれた、様々なものに本当に感謝しています。



第28回 蛙鳴祭 9月22日(土)・23日(日)

今年のテーマは **In alle Welt** です

「イン・アレ・ウェルト」ドイツ語で「あらゆるところへ」を意味します。それぞれのクラス・団体がその特色をいかして、ご来校なさった方々を素敵な「あらゆるところへ」ご案内致します。



入

試ミ二説明会

*いずれも小ホールにて *願書を無料で配布しております。

中学 9月22日(土) 13:30~14:30 **高校** 9月23日(日) 13:30~14:30



も

ちろん、同窓会も参加します!

獨協埼玉の28年の歴史や、先生方の若かりし頃(!?)や現在が分かる“今昔物語”などを展示中!! 同窓生の皆様もご家族づれでお越し下さい。



体育祭 9月20日(木) 10:00~15:00

今年もお揃いのカラーTシャツに身を包み、汗と涙を流す体育祭の季節がやってきます。自由にご覧いただくことができますので、お時間があまりましたら、是非お越しください。

入試

募集 中学：男女共学4クラス160名
高校：男女共学4クラス160名

*詳しくは…
学校HPを
ご覧ください。

説明会 中学のみ 9月16日(日)
中学・高校 10月14日(日)・11月11日(日)

同窓会役員人事紹介

(括弧内数字は卒業年)

同窓会名簿の更新について

同窓会名簿の更新につきましては、現在、幹事会において検討中ではありますが、個人情報保護の観点から、具体的な更新日時を決定しておりません。あらかじめご了承ください。

同窓会からのお願い

①同窓会運営に関するご意見がございましたら、上記の理事・事務局・幹事までご連絡ください。またできる限り、総会に出席していただき、その場で意見を寄せていただければ幸いです。よくよくお願いします。
②同窓生で同窓会からの郵便物が届かない方がいらっしゃいましたら、FAX・メール等で事務局まで情報をお寄せ下さい。後で同窓会会報等を郵送いたします。ご協力よろしくお願いいたします。
③住所などで変更がございましたら、獨協埼玉高等学校同窓会までお知らせください。

④同窓会は、同窓会活動を遂行する上で取得させていただいた各種の個人情報（住所・氏名・生年・性別・学年・卒業年・連絡先）を適切に保護し、会報・同窓会が主催協力する行事等の開催案内の送付・学校で保有する卒業生データベースの構築のための情報提供にこれらの情報を利用します。なお個人情報の提供に同意されない方は事務局まで届け出ください。
※最近、同窓会を名乗り、電話で個人情報を聞き出すという団体があるようです。本同窓会では、電話での問い合わせは一切しておりませんので、ご注意ください。

会費納入のお願い

平成11年度の卒業生より、同窓会会則に従い正式に卒業年度に、終身会費を納めていただくことになりました。つきましては、既に卒業された同窓生にも終身会費（1万円）を納入していただきたく、納入票を同封させていただきました。同窓会の運営資金となります。趣意をご理解の上、ご協力をお願いいたします。
※既にお支払いいただいた方には振込用紙は封入されておりません。

獨協埼玉高校
同窓会連絡先

〒343-0037 埼玉県越谷市大字恩間新田字寺前316 ☎048-977-5441 ☎048-977-2031
e-mail: dosokai@dokkyo-saitama.ed.jp URL http://www.dokkyo-saitama.ed.jp/